



2013 MFJ全日本ロードレース選手権シリーズ 第9戦  
第45回MFJグランプリ  
スーパーバイクレースin鈴鹿  
三重県・鈴鹿サーキット

---

11月2日(土)天候:曇り 路面:ドライ  
公式予選/1'29"838 6番手  
11月3日(日)天候:曇り 路面:ドライ  
決勝/RACE1:6位・RACE2:6位  
シリーズランキング:5位  
観客動員数(土・日合計):24,500人

ついに最終戦を迎えた2013年の全日本ロードレース選手権シリーズ。TOHO Racingとして3年目、TOHO Racing with MORIWAKIとしてJSB1000クラスを2年戦ってきた集大成のレースとなる。今回もST600クラスには、TOHO RACING CLUBの宮嶋佳毅が参戦。元々MORIWAKI CLUB出身だけに鈴鹿はホームコースとも言える。走り慣れたサーキットで一つでも上位でゴールしたいところだ。



最終戦の舞台となった鈴鹿サーキットは、JSB1000クラスは、4月の第2戦鈴鹿2&4レースに続き2回目、鈴鹿8耐もあり、一番走り込んでいるコース。最終戦は2レース制で行われるだけに、この2年間でのマシンの進化の結果を出したいレースとなる。

今回のレースは、事前テストがなかったことから、昨年と同じく木曜日に特別スポーツ走行があり、通常とは一日早いレースウィークのスタートとなった。前戦の岡山ラウンドでモディファイしたスイングアームを投入したが、鈴鹿に向けて、さらにモディファイしたものを持ち込んだ。岡山のものがバージョン2ならば、今回は、バージョン3となる。木、金と2日間かけスイングアームの選定を中心に、マシンセットを進め、バージョン3で戦うことを決意する。



2013 MFJ全日本ロードレース選手権シリーズ 第9戦  
第45回MFJグランプリ  
スーパーバイクレースin鈴鹿  
三重県・鈴鹿サーキット

---

公式予選は、ノックアウト方式で行われ40分間で行われたQ1でレース1のグリッドが、Q2でレース2のトップ10のグリッドが決まる。通常ならばQ1で10番手以内に入っておけばいいのだが、今回は、Q1からしっかりタイムを出す必要があった。しかし、転倒が相次ぎレッドフラッグが提示されセッションが中断される荒れた予選となった。不運だったのが、最後のアタックに出てベストタイムをマークしたが、2度目の赤旗が提示され無効となってしまったことだ。このため、山口はQ1で10番手になってしまう。Q2では、タイムを更新し2分08秒111で7番手グリッドを確保する。

迎えたレース1。山口は、4列目から好スタートを切り、オープニングラップを7番手で戻ってくると3周目には、予選タイムを上回る2分07秒952をマーク。4周目には、さらにタイムを縮め2分07秒659をたたき出す。しかしトップグループは2分06秒に入っており、徐々に離されてしまう。上位を走るマシンは、いずれもメーカー直系のファクトリーマシン。山口は、市販キット車で驚異的な走りを見せていた。そして、岡山に続きメーカー直系のマシンを駆る渡辺選手と6位争いを繰り広げる。最終ラップにアクシデントが発生し、赤旗が提示され、レース1は、14周終了時で成立し、山口は6位となった。

7番手グリッドからスタートしたレース2は、1コーナーで6番手に上がると、トップグループに食らいついていく。そして5周目に西コースから雨がポツポツと降ってくる。トップを走っていた秋吉選手は、これを見ると手を上げスローダウン。これに山口も呼応しスロー走行に入るが、渡辺選手が一気に前に出ていく。レッドクロスフラッグは出っていたが、赤旗にはならず、そのままレースは続行される。この混乱の中、山口は一時4番手に上がるが7周目に5番手に後退すると秋吉選手と5位争いを繰り広げる。10周目に秋吉選手にかかわされ6番手となるが、しばらく秋吉選手のテールをマーク。最後は、引き離されてしまうが6位でゴール。シリーズランキング5位で2013年シーズンを終えた。





2013 MFJ全日本ロードレース選手権シリーズ 第9戦  
第45回MFJグランプリ  
スーパーバイクレースin鈴鹿  
三重県・鈴鹿サーキット

---

ライダー 山口 辰也コメント

「レース1は、序盤にキット車でのベストタイムを出せましたし、ファクトリーマシンを一台かわすこともできたのは、よかったです。レース2は、路面温度が下がってしまい、チョイスしたタイヤと合わず苦しいレースになってしまいましたが、両レースとも6位と無事に最終戦を終えることができました。ランキングは5位と下がってしまいましたがSUGOを除いたレースでは、すべてプライベートトップで終われましたし、チーム一丸となって今年も最終戦まで戦うことができました。これも応援していただいている、すべての方のおかげです。ありがとうございました」

監督 齊藤博士コメント

「決勝で2分07秒台中盤まで出すことができ、現状のパッケージではベストに近いところまでマシンのポテンシャルを発揮できたと思います。両レースとも6位となり、満足しているわけではないですが、ここから上に行くために必要なことも分かりました。2010年よりTOHO Racingを発足させ、去年、今年とJSB1000クラスに参戦し、チームの居場所を確立した2年間だったと思います。支えてくださった皆さんに、本当に感謝します」



株式会社 TOHO  
TOHO Racing with MORIWAKI  
担当 野口